

誰一人取り残さないために

自助

災害に強い地域づくり

共助

公助









地域で取り組む防災

災害から身を守るためには、行政による「公助」の取り組みと連携し、自分の身は自分で守る「自助」や、近所の人等と助け合う「共助」による取り組みを進めることが大切です。

自主防災組織とは？

自主防災組織とは『自分たちの地域は自分たちで守る』を理念とし、安心できるまちをつくるために、隣近所の「顔の見える関係」を大切にしてみなさんが協力しあって防災活動を行う組織です。みんなで話し合い、できることから始めましょう。

自主防災組織の活動例 ～平常時は災害に備える活動、災害時には地域を支える活動～

平常時	災害時	平常時	災害時
<p>役場、消防署などの連絡調整を行い、防災活動に備える。</p> 	<p>役場や消防署などの連絡調整を行い、現場をまとめる。</p> 	<p>救出用資機材の使用法、負傷者の搬出法、応急手当法の習得訓練を行い、医療施設や救護所の位置を確認。活動用資機材の整備点検。</p> 	<p>資機材を用いて救出作業を行う。負傷者の応急手当を行い、医療施設や救護所に搬送。</p> 
<p>防災訓練や講習会を通じて防災知識の普及活動。回覧やチラシ等で住民へ防災の啓発活動。</p> 	<p>役場や消防機関から情報を収集し、住民に対して正しい情報を伝達。地域の被害状況や避難状況を役場へ報告。</p> 	<p>地域内の危険箇所の把握。複数の避難経路・避難場所を把握しておき、誘導訓練。</p> 	<p>組織として安全な行動がとれるよう、避難場所までの確に住民を誘導。</p> 
<p>地域内に火災被害の発生、拡大につながる原因がないか確認。消火器具の点検や効果的な消火技術の習得。</p> 	<p>周辺住民の協力を求めて初期消火を行い、火災の拡大を抑止。</p> 	<p>物資の備蓄・管理。炊き出し・給水訓練などの実施。</p> 	<p>炊き出し、飲料水の確保。食料品や救援物資の受け入れと配給。</p> 

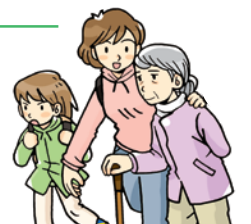
要配慮者への思いやりを

高齢者や障がい者、傷病者、幼児、妊産婦、外国人など、避難に時間がかかったり、情報や状況を迅速に把握できない等の配慮が必要な方を要配慮者といいます。過去の災害を振り返っても、このような方々が災害で命を落とすことが多くあります。いざという時は地域ぐるみで助け合いましょう。



日頃からの関係づくりと支援

自主防災組織などでどのような支援ができるか、話し合っておきましょう。地域内の要配慮者の生活状況などを把握し、災害時の情報の伝え方や支援方法などを決め、伝えておきましょう。そのためにも日頃からコミュニケーションをとり、信頼できる関係づくりを作っておきましょう。



安全誘導のポイント



高齢者・傷病者

- 分かりやすく状況を伝える
- 不安を取り除くように声をかける
- 手を貸したり、おぶって避難



障がい者

- 介助の手助けを
- 目が不自由な方には、行動を言葉で説明して誘導



妊産婦・幼児

- 手荷物を持つ等の手助けを
- 子どもがはぐれたり、ケガをしないよう気にかける



外国人

- 言葉が通じない場合は身振りや絵で、スマホがある場合は翻訳アプリで状況を説明